

《担当者名》○山田律子[rich@hoku-iryo-u.ac.jp]
佐藤明子(兼担)[akiko-wocn@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

疾患の慢性期および慢性疾患をもつ高齢者が、長期間の罹患経過のなかでセルフコントロールしながら、もてる力を活かした豊かな生活をおくるために、高齢者とその家族へのcureとcareを統合した高度な看護実践をはじめ、相談者の成長を助けるコンサルテーション、倫理的課題の解決に向けた倫理調整、看護チームや多職種チームへの組織的アプローチと調整するための老人看護専門看護師(GCNS)に必要な実践力を身につける。

【学修目標】

- 1) 慢性期にある高齢者の特徴と家族に対するcureとcareを統合した高度看護実践を展開する方法について説明できる。
- 2) パーキンソン病や糖尿病をもつ高齢者と家族へのcureとcareを統合した高度看護実践を展開できる。
- 3) 繰り返す誤嚥性肺炎の再発を防ぎ、高齢者が再び食べることへとつなぐためのケアスキルを修得できる。
- 4) 脳血管障害の回復期にある高齢者とその家族に対する倫理的課題の解決に向けた倫理調整や、相談者の成長を助けるコンサルテーションについて考えることができる。
- 5) 在宅でスキントラブルを抱える高齢者とその家族に対して、治癒の促進に向けて家族介護力や社会資源を含めた多職種協働による支援体制を構築するための調整方法について考えることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	慢性期にある高齢者と家族への看護展開方法	疾患の慢性期や慢性疾患をもつ高齢者の特徴と、加齢変化や環境の影響、生活史や価値観に基づく当事者主体の自立支援を基盤として、疾患や障害をもちながら生きる高齢者と家族へのcureとcareを統合した高度看護実践の展開方法を学ぶ。	山田
2	パーキンソン病をもつ高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	パーキンソン病の病態、進行経過、診断・治療、合併症、生活障害の特徴を踏まえた上で、複雑な課題を抱えるパーキンソン病の高齢者とその家族の支援の方向性についてアセスメントを行う。	山田
3	パーキンソン病をもつ高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	パーキンソン病をもつ高齢者に対する治療と生活支援の両面から看護実践を考える。	山田
4	糖尿病をもつ高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	高齢者の糖尿病の臨床特性と病態、症状と合併症、運動療法・食事療法・薬物療法の留意点とセルフケアにおける課題について考える。	山田
5	糖尿病をもつ高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	食事療法や薬物療法のコントロールが困難な自宅で暮らす糖尿病をもつ高齢者と家族に対するGCNSの事例をもとに、本人や家族、看護チームや多職種チームの成長を支える調整法を学ぶ。	高橋淳子(特別講師) 山田
6	糖尿病をもつ高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	同事例に対して本人や家族への高度な看護実践について事例検討会を通して学ぶ。また、糖尿病の高齢者における足病変へのフットケア技術を修得する。	高橋淳子(特別講師) 山田
7	誤嚥性肺炎を繰り返す高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	摂食嚥下機能の加齢変化と誤嚥性肺炎の疫学的動向と病態、検査・診断、繰り返す誤嚥性肺炎のアセスメントと予防に向けた高齢者の生活上の留意点を考える。	山田
8	誤嚥性肺炎を繰り返す高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	演習として嚥下障害のスクリーニング法(頸部聴診法、RSST、MWST、咳テスト)、姿勢調整法、摂食嚥下訓練、スプーンテクニック、口腔ケアのスキルを修得する。	山田
9	誤嚥性肺炎を繰り返す高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	誤嚥性肺炎を繰り返す高齢者と家族に対して、誤嚥性肺炎の再発を予防し、再び食べる喜びをもたらしたGCNSによる高度看護実践を事例を通して学ぶ。	山田
10	脳血管障害をもつ高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	高齢者における脳血管障害の病態、最新の診断と治療法、多様な合併症と再発予防、リハビリテーションについて学ぶ。	山田

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	脳血管障害をもつ高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	回復期リハビリテーション病棟に入院中の脳血管障害をもつ高齢者と家族に対してGCNSが関わった事例の検討をもとに、在宅復帰に向けて、相談者である看護師を中心にチームの成長を導くコンサルテーションについて考える。	菅原昌子(特別講師) 山田
12	脳血管障害をもつ高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	同一事例に対して、退院先をめぐる倫理的課題の解決に向けた本人、家族、看護チーム、多職種チームとの倫理調整について考える。	菅原昌子(特別講師) 山田
13	スキンケア・フットケアが必要な高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	皮膚の加齢変化、高齢者に特徴的なスキントラブル(スキンケア、褥瘡、ドライスキンと老人性皮膚掻痒症、白癬、疥癬等)と治療およびケアについて学ぶ。	佐藤 山田
14	スキンケア・フットケアが必要な高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	スキンケアが必要な高齢者に対して、湿疹の分類と診断法、スキンケアや褥瘡の評価方法と、予防や治療を促進するためのケアスキルを修得する。フットケアモデルを用いた演習を行う。	佐藤 山田
15	スキンケア・フットケアが必要な高齢者と家族へのcureとcareを統合した看護実践	訪問看護で関わる褥瘡をもつ高齢者とその家族に対して、家族介護力と地域にある社会資源も活用した多職種協働による早期治療を導く看護実践を検討する。	佐藤 山田

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

課題レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、ディスカッションへの参加(20%)によって総合的に評価する。

【教科書】

1. 山田律子・内ヶ島伸也(2020). 生活機能からみた老年看護過程 第4版. 医学書院.
2. 北川公子(2018). 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版. 医学書院.
3. 日本老年医学会編(2013). 老年医学系統講義テキスト. 西村書店.

【参考書】

1. 岡本充子他(2015). エンド・オブ・ライフを見据えた“高齢者看護のキホン” 100 看護管理者と創る超高齢社会に求められる看護とは. 日本看護協会出版会.
2. Hamric, A. B. et al., 中村美鈴・江川幸二監訳(2020). 高度実践看護 統合的アプローチ改訂第2版. へるす出版
3. 日本老年医学会編(2019). 健康長寿診療ハンドブック 実地医家のための老年医学のエッセンス 第2版. メジカルビュー社.
4. 才藤栄一・植田耕一郎監(2016). 摂食嚥下リハビリテーション 第3版. 医歯薬出版株式会社.

【備考】

- 1) Zoomを利用して画面共有しプレゼンテーションを行い、ディスカッション時は全員がミュートを外して自由に討論する。
- 2) Google Classroomを活用した課題や資料を提示するほか、学生は指定期限までにレジュメ等をストリームにアップする。

【学修の準備】

- 1) 毎回、関連する文献やガイドラインを読んで授業に臨むこと。
- 2) 1~4回、7回、10回は、事前に課題に対するレジュメを作成し、ディスカッションテーマを定めた上で授業に臨むこと。
- 3) 5・6回、8・9回、11~15回目は課題ごとに事前資料を読んで授業に臨むこと。

【学修方法】

1~4回、7回、10回はレジュメを作成して討議、5・6回、8・9回、11~15回目は課題ごとに事前資料を読んで授業に臨み、看護実践に必要なケアスキルを演習形式で修得すると共に、GCNSや教員と共に、慢性期にある高齢者と家族に対するcureとcareを統合した高度な看護実践をはじめとするGCNSの役割を実践的に学ぶ。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期(修士)課程のディプロマ・ポリシーに適合している。